

令和3年度東京都教育委員会研究推進団体 教育実践発表
東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会（城西ブロック）

団体の概要

本協議会は、東京都公立学校難聴・言語障害通級指導学級の研究会であり、城西ブロックは、千代田区・中野区・中央区の各1校と、杉並区の3校で構成されている。

研究テーマ

話す力を高める指導
～話し手として伝わりやすい構文力を身に付けるために～

研究のねらい

「話す力」は、どの児童にとっても大切な力である。話す行為には、相手との相互作用も関係するが、ここでは「話し手としての話す力」に限定し、その中でも「構文力」に着目した。

研究の内容

国際医療福祉大学大学院の藤田郁代先生に、構文力の発達と評価について御指導いただき、以下の2点のことについて明らかになった。

- ①評価については、量（平均発話長）と質（適正文数、関係節の使用等）の両面から見ていく必要がある。
- ②指導については、教材を用いた段階的な指導と、自然な会話経験の両面から発達を促す必要がある。

研究の成果と課題

「話す力」というものを構文検査で評価できるようになり、どの段階でつまづいているかが分かるので、段階に応じた教材作りや指導の工夫ができた。その結果を教材集にまとめた。

また、教材による構文指導と併せて会話指導や会話経験が大切であることも再認識した。

自由会話の分析は、さらに実践を積み重ねていく必要がある。

今後の活動予定

作成した教材集を各校で活用していき、有効な使用方法について検討する。

代表者・連絡先

代表者：
杉並区立杉並第十小学校
校長 山口 京子
連絡先：
同校 主任教諭 福田 麻美
03(3318)7771

団体の概要

本協議会は、東京都公立学校難聴・言語障害通級指導学級の研究会であり、多摩北ブロックは、国立市、小平市、小金井市、東村山市、東久留米市、東大和市の各1校の小学校で構成されている。

研究テーマ

「ことばの教室における効果的な構音指導」

研究のねらい

多摩北ブロックは経験年数の浅い教員が多いため、改めて構音について基礎から全員で学び知識を深め、構音指導における技術の向上をねらい、本研究テーマを決定した。

研究の内容

- ・複数の同じ児童について2年間指導経過を追い、変容を見た。
- ・「初期評価」「指導方針」「指導方法」「指導結果」と共通の項目で内容を整理し、実態把握をした。
- ・2年間を通して東京学芸大学教授大伴潔先生に御指導いただいた。

成果

- ・2年間指導経過を追ったことで、児童の変容をみることができ、ケース検討を深めることができた。
- ・4つの共通の項目で内容を整理したことで、的確な実態把握ができることを再確認した。
- ・誤り方の評価や整理の仕方、指導音の優先順位のつけ方等、構音指導の基礎基本を学ぶことができた。

課題

- ・実態をデータ化して傾向や特徴の把握はできたが、今後は誤り音をグループごとに分析したり、得られた情報を指導へ生かすための方法を深めたりすることに課題がある。

今後の活動予定

今後は誤り音別の分析や考察を行い、指導方針、効果的な指導、支援や教材のまとめなど、指導への生かし方について十分な協議を進め、実践する。

代表者・連絡先

代表者：国立市立国立第七小学校
校長 小畑 行広
連絡先：同校 教諭 谷口 基徳
042(575)8425（教室直通）
taniguti_motonori@kunitachi.ed.jp